

吾妻山の火山活動解説資料（平成 26 年 9 月）

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いています。火山性地震は少ない状況で経過し、火山性微動も観測されませんでした。ただちに噴火する兆候は認められませんが、火口等では火山ガスの噴出が引き続きみられますので警戒してください。また、大穴火口の風下側でも火山ガスに注意してください。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①、④）

上野寺（大穴火口の東北東約 14km）に設置してある遠望カメラによる観測では、大穴火口（一切経山南側山腹）の噴気の高さは噴気孔から概ね 100m 以下で経過し、噴気活動はやや活発な状態が続いています。

・ 地震や微動の発生状況（図 2-②、③、⑤～⑧）

火山性地震は少ない状況で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図 3、図 4-①、②）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 吾妻山 大穴火口からの噴気の状況（9月23日）

- ・ 福島市上野寺（大穴火口から東北東約 14km）に設置してある遠望カメラの映像です。
- ・ 実線赤丸で囲んだ部分が、大穴北西側火口壁の白色噴気で高さは 100m です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成26年10月分）は平成26年11月11日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。

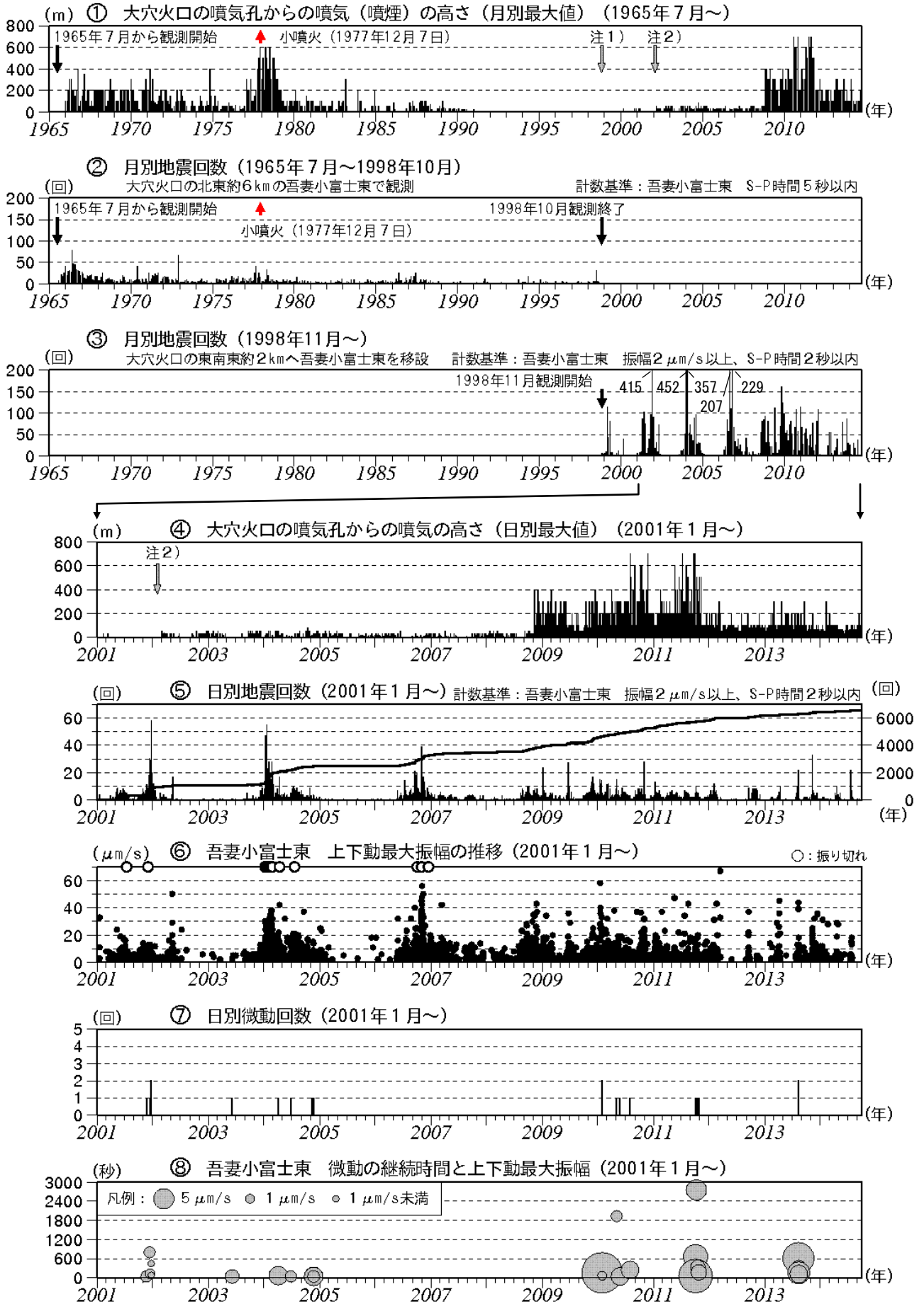


図2 吾妻山 火山活動経過図 (1965年7月～2014年9月)

- ・①注1) 1998年以前は福島地方気象台 (大穴火口の東北東約20km) からの目視観測で、1998年からは遠望カメラ (大穴火口の東北東約14km) による観測です。
- ・①、④注2) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。

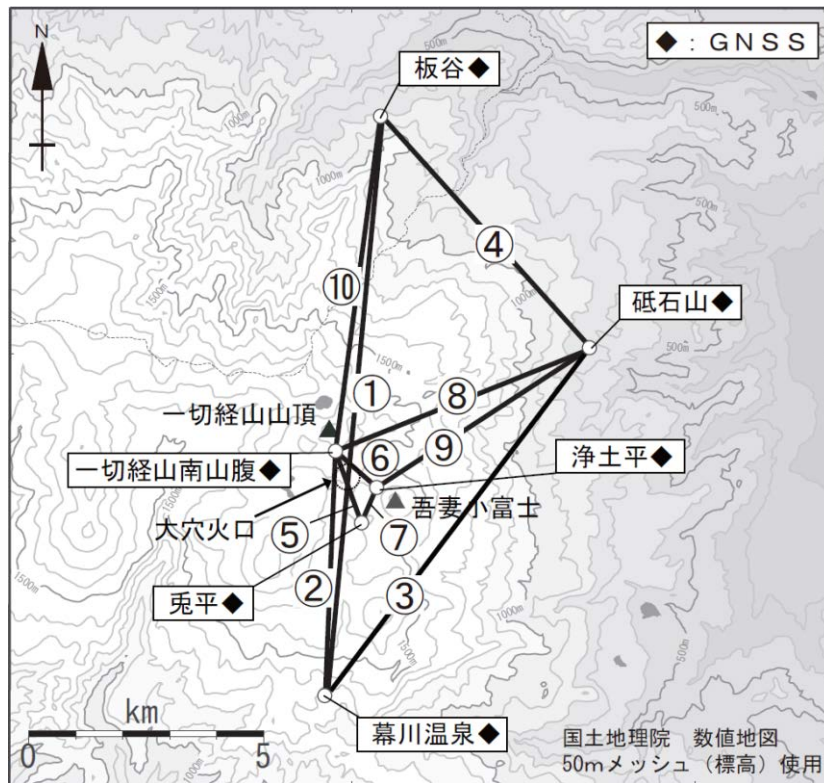


図3 吾妻山 GNSS¹⁾観測点配置図

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

小さな白丸 (○) は気象庁の観測点位置を示しています。

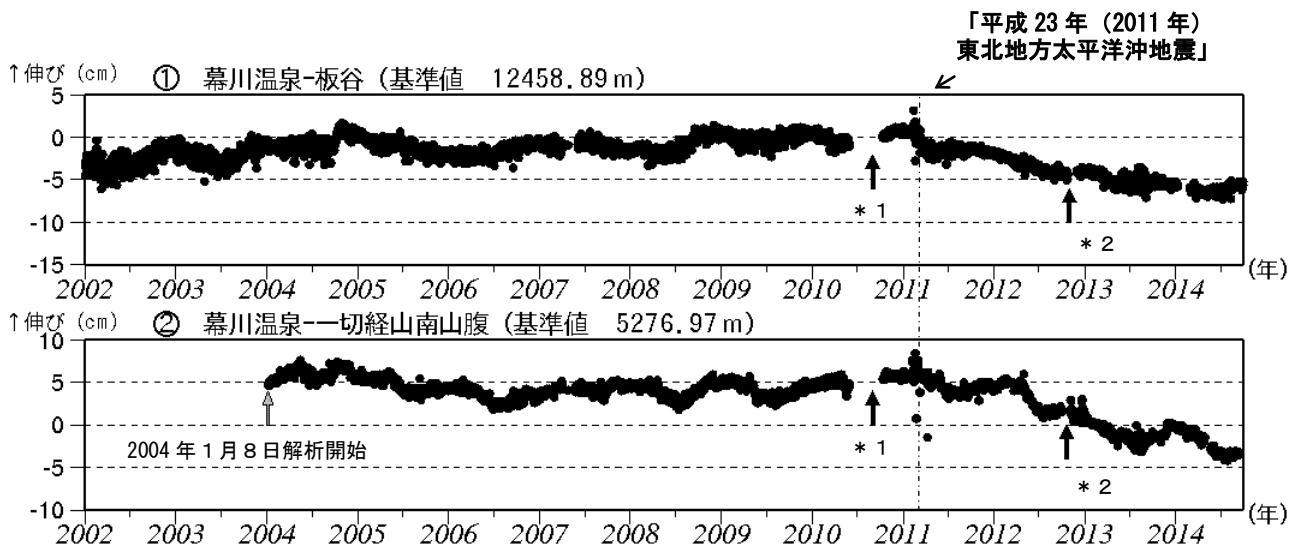


図4-① 吾妻山 GNSS 基線長変化図 (2002年1月～2014年9月)

- ・ 2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
- ・ 「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・ 2011年3月11日以降の変動は、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。
- ・ ①～②は図3のGNSS基線①～②に対応しています。
- ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・ 各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
- * 1 : 幕川温泉観測点の機器を更新しました。
- * 2 : 板谷観測点と一切経山南山腹観測点の機器を更新しました。

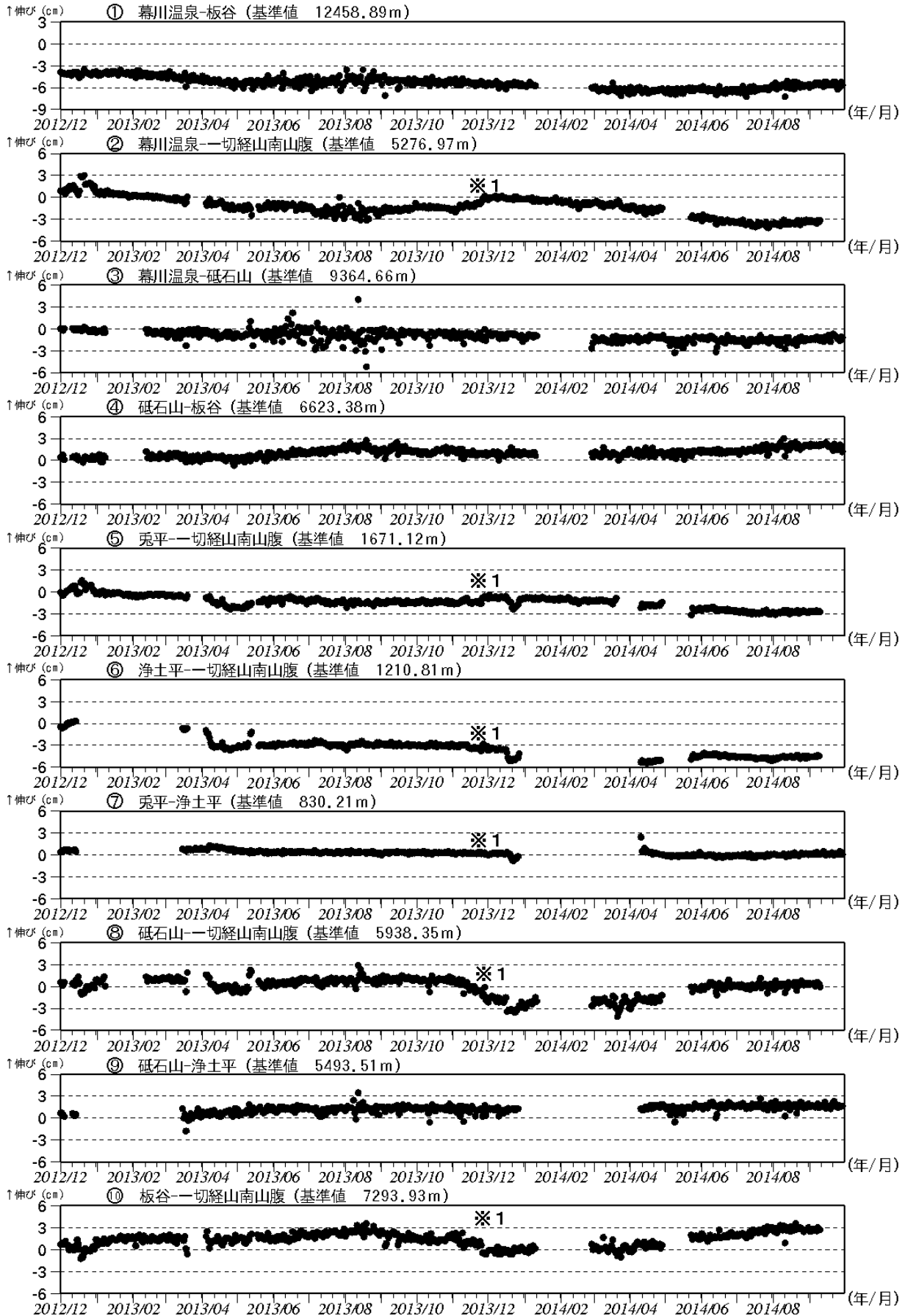


図 4-② 吾妻山 GNSS 基線長変化図 (2012 年 12 月～2014 年 9 月)

- ・ ①～⑩は図 3 の GNSS 基線①～⑩に対応しています。
 - ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - ・ 2012 年 11 月に機器の更新と移設を実施しました。
 - ・ 各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
- ※ 1 2013 年 11 月から 12 月にかけて、一切経山南山腹観測点と兎平観測点では原因不明の変動が観測されていますが、火山活動に起因するものではありません。



図5 吾妻山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学